

道徳科学習指導案(第3学年)

主題名「社会に参画することの意義」〔学指要領：C12 社会参画、公共の精神〕

I 主題設定の理由

1 価値観

本主題は、「社会参画の意識と社会連帯の自覚を高め、公共の精神をもってよりよい社会の実現に努めること」を中心価値としている。「社会参画の意識」とは、社会の一員としてその社会に積極的に関わり、社会的な役割や責任を果たそうとすることである。社会の形成を人任せにするのではなく、主体的に参画し、社会的な役割と責任を果たすことが重要である。「社会連帯の自覚」とは、社会生活において、人々が協力し、誰もが安心して生活できる社会をつくっていかうとすることである。「公共の精神」とは、社会全体の利益のために尽くす精神すなわち、政治や社会に関する豊かな知識や判断力、論理的・批判的精神をもって自ら考え、社会に主体的に参画し、公正なルールを形成し遵守する精神である。中学生にとって社会は決して遠い存在ではなく、自分も社会の一員であるという自覚を深めさせる必要があり、よりよい社会の実現のために自分に何ができるのか、何が必要なのかを多面的に考え、深めさせていく。

中学生の時期は、学年が上がるにつれて、社会において人間関係が希薄化する傾向が見られ、他者に対する配慮を欠き、公の場で、意識するかしないかにかかわらず自己中心的な言動をとってしまうことも少なくない。そこで、社会参画の意義を理解し、社会の形成に主体的に参画し、社会的な役割と責任を果たすことの必要性に気付き、自分も社会の一員であるという自覚を深めさせ、よりよい社会の実現のために実践できる力を養うことが大切である。

2 生徒観

本学級の生徒は、

～ 中 略 ～

これらのことから、本授業を通して、社会に興味をもち、よりよい社会とはどのようなものか考えを深めるとともに、積極的に社会参画しようとする実践意欲と態度を育てたい。

3 教材観 教材名「一票を投じることの意味」(出典：中学道徳3 光村図書)

「私」(あかり)は、始めは選挙に対して興味がなかったが、父に誘われて投票所へ行ったり、その後本を読んだりしたことをきっかけに、「選挙とは何か」を考え始める。池上彰さんの文章を読んだ「私」は、「一票を投じることの意味」や、選挙権を得る3年後までに、何ができるかを考え始めるというあらすじである。

本教材は、選挙に興味なかった主人公が、本を読むことを通して選挙の意義について理解し、社会参画に興味をもち始める姿から、社会参画の意義について考えを深め、積極的によりよい社会づくりに関わっていかうとする実践意欲と態度を育むことができる。人々が安心・安全に生活を送ることができる社会について具体的に考えるとともに、選挙の意義に触れ、よりよい社会を実現するために大切なことについて自分事として考えを深めさせることで、社会参画の意義についての理解を深め、社会の発展に寄与する態度を育むことのできる適切な教材となっている。

II 本時の学習

- 1 **ねらい** よりよい社会にするために大切なことや、自分たちにできることを多面的・多角的に考えて話し合う活動を通して、よりよい社会を実現するために、社会や公共の問題に目を向けることの大切さに気付き、社会に参画していこうとする意欲と態度を育てる。

2 展開

【★ICT活用に関する事項】

主な学習活動 主な発問 (◎中心発問 ◇補助発問) 予想される生徒の反応〔S〕	○指導上の留意点
<p>1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。(5分)</p> <p>S: 普段ニュースをよく見るから社会に興味がある。 S: 選挙権をもっていないし、選挙に興味はない。</p> <p>＜めあて＞ よりよい社会を実現するために大切なことは何だろう。</p>	<p>○クラスの実態を把握するために、事前アンケート(社会の出来事に興味があるかどうか。その理由は。)の結果を提示する。 【★提示】</p> <p>○めあてを意識するために、そもそも今の社会は良い社会であるかどうかとその理由を問いかける。</p>
<p>2 教科書の教材文の範読を聞く。(5分)</p> <p>3 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。(25分) 【★共有】 【★保存・提出】</p> <p>◎「投票できるようになるまでの3年間で、皆ができることは何だろう。」</p> <p>S: 投票の方法や当選する方法を知った上で投票したいから、選挙の仕組みを知る。 S: 社会の問題点を解決できる人を選ぶ必要があるから、まずは社会について知る。 S: ゴミ拾いやボランティア等、自分にできることをする。</p> <p>◇「若者の投票率が低い社会は、よい社会といえるだろうか。それはなぜか。」</p> <p>S: よい社会といえない。若者の意見が政策に反映されづらくなるかもしれない。</p> <p>4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてもう一度考える。(5分)</p> <p>S: 社会をよくするためにできることを、人任せにしないで自分自身で考えて行動することが大切。</p>	<p>○よりよい社会実現のための行動の中には個人ではできないことがあることに気付けるよう、よい社会の要素を分類分けするよう促す。</p> <p>○社会参画の意識を高めるために、よりよい社会実現のためにできることを問いかける。</p> <p>○多面的・多角的に考えることができるよう、考えを書いた付箋を台紙に貼り、共有するよう促す。</p> <p>○考えを広げたり深めたりできるように、付箋を貼るときは考えの根拠を話すよう促す。</p> <p>○社会の問題点を踏まえてよりよい社会について考えられるように、群馬県知事選挙の投票率の資料を提示し、若者の投票率が低い状態で、国民全員にとってよりよい社会になるか問いかける。 【★提示】</p> <p>○本時の授業で学んだことを意識できるように、めあてについてもう一度考えるように促す。</p>
<p>5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。(10分) 【★共有】 【★保存・提出】</p> <p>＜振り返り＞</p> <p>S: 今まででは社会にあまり興味がなかったけれど、今日の授業でよりよい社会にするためには、人任せにせずに社会について考えることが大切だと思った。今のうちから社会について知り、選挙権をもったら自分の考えをもって選挙へ行きたい。</p>	<p>○生徒がクラスの変容に気付けるように、再度アンケートを実施し、結果を電子黒板に映して事前アンケートの結果と比較する。 【★提示】</p>

◆評価の視点

発言および記述から、「よりよい社会を実現するために大切なことは何か、多面的・多角的に考えている」姿を見取る。

発言および記述から、「よりよい社会を実現するために大切なことは何か、自分自身との関わりの中で考えている」姿を見取る。